

社会歯科学入門

Introduction to Dental Sociology

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 社会歯科学
- ③ 健康の地域差
- ④ ライフコースアプローチ
- ⑤ 健康の社会的決定要因

授業概要

高齢化の進展、国民医療費の増大、要介護者の増加、小児におけるう蝕有病率の減少など、歯科保健・医療・福祉・介護を取り巻く環境は劇的に変化している。こういったなかで、歯科保健・医療・福祉・介護に関する社会的な課題を発見し、その要因を追求する能力とそれを解決する手段の構築方法を概説する。特に歯科保健・医療・福祉・介護に関する既存の資料の収集法、新たな調査を行う方法と得られたデータの整理、分析、考察の方法について解説する。

授業科目の学修目標

社会歯科学は歯科に関わるすべての職種が理解しておく必要があり、そうしたなかで本科目では社会歯科学に関する問題を発見し、その解決に寄与する研究方法の立案をするため必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 社会歯科学の意義と基本的事項
 - ・社会医学と社会歯科学の歴史と研究の変遷 2コマ 山本龍生
 - ・社会歯科学の基本事項 8コマ 山本龍生
- ② 人を対象とした医学系研究に関する倫理指針と個人情報の保護 4コマ 山本龍生
- ③ 社会歯科学的な研究の視点
 - ・歯科保健・医療・福祉・介護に関する地域差 4コマ 山本龍生
 - ・歯科におけるライフコースアプローチ 4コマ 山本龍生
 - ・歯科における健康の社会的決定要因 4コマ 山本龍生
 - ・歯科における医療経済と政策評価 4コマ 山本龍生

教科書および参考書

近藤克則編著：健康の社会的決定要因 疾患・状態別『健康格差』レビュー、日本公衆衛生協会、2013

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

社会歯科学に関する大学歯学部卒業レベルの予備知識が要求される。また、国内外の原著論文や総説論文を熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 社会歯科学の意義を理解し社会歯科学の基本的事項を説明できる。
- ② 社会歯科学領域の倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 社会歯科学的な研究の視点を理解しその視点で研究を批判的に吟味できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
50%	0%	20%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回50%
- ・レポートは、社会歯科学的な研究の視点の4項目について課題を提出する。5%×4回=20%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。